

ようこそ人環・総人図書館へ！ 新入生歓迎号！

ようこそ人環・総人図書館へ！
新入生歓迎号！

ようこそ人環・総人図書館へ！
当館は全学共通科目の参考図書が置かれている吉田南構内で唯一の図書館。しばらくの間、新入生の皆さんが一番身近に利用する図書館になると思います。これからどうぞよろしくお願ひいたします。今月号はわたしたちから新入生の皆さんへのささやかなプレゼントです。どうぞ新生活にお役立て下さい

Contents

表：守破離のススメ

～人環院生から新入生のみなさんへ～

裏：人環・総人図書館すごろく2013

『目指せ！人環・総人図書館マスター！』

裏面へどうぞ

京都大学
人間・環境学研究科総合人間学部図書館

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

電話：075(753)6524, 6525

Fax：075(753)6896

Email：eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

人環総人図書館のHPもご覧ください。
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/heslib/>L
i
b
r
a
r
y

N
e
w
s
l
e
t
t
e
r

守破離(しゅはり)とは？

剣道や茶道で、修業上の段階を示したものの。守は、師や流派の独自の教え、型、技を確実に身につける段階、破は、他の師や流派の教えについて考え、良いもの、望んでいる方向へと発展する段階、離は、一つの流派から離れて、独自の新しいものを確立する段階。

日本国語大辞典、ジャパンレッジ(オンラインデータベース)、入手先<<http://www.jkn21.com>>、(参照 2013-03-19)

型を熟知した上で「型破り」になれ！ S.Yさん(人環D3)

大学、引いては社会で求められる人材というのは、頭のキれる人で、いわゆる“おりこうさん”ではないと思っています。今までは、周囲から見て多少変なことをしていても、許されていた部分があったりしたかもしれませんが、これからは晴れて大学生、それから卒業です。高校のときまでだと思います。成人を迎えるときでもある大学生時代は、自分を客観的に見て、自分で考えることができるようにならないといけなのではないかと思えます。また、「成人＝大人になる」という意味で、謙虚になることが必要(これがなかなか難しいのですが...)。それは周りをよく見、相手を許容し、認めることだと思います。

目に見えているものがすべてではない、ということを感じ、常に貪欲に、でも独りよがりにならずに、型を熟知した上で「型破り」になれる人になってください！

効率性から解放された学びへ S.Tさん(人環D3)

高校と大学の最大の違いは、勉強に「範囲」がなくなるということです。高校であれば、学習すべき対象と範囲が定められているので、その中で勉強を頑張ればよいのですが、大学ではそれがありません。受験勉強のような効率的で直線的な勉強に慣れていると、何をどのように学んでよいのか戸惑うことも多いと思えます。極端にいえば、学ぶべき対象は無数にあり、それをどのような角度で学ぶかはあなた自身が決めることになるからです。だから、個々の事柄の中から自分で対象を定め、「答え」を探る帰納的な勉強においては、「無駄」なことや「回り道」をすることが少なくありません。でも、大事なことは、そのような「無駄」や「回り道」を厭わず、とにかく手探りで主体的に学んでいく姿勢を身に付けることだと思います。

効率性から解放された学びは、はじめはしっかりこないかもしれませんが、その「遊び」が楽しめるようになったときに、本当の大学生活が始まるはずですよ。みなさんには、自由な学びが許される大学という場所で、ぜひその「無駄」な勉強の楽しさを知ってほしいと思います。

あなたにとって大切な問題に、じっくり向き合ってください K.Sさん(人環D2)

これからのあなたの人生にとって大切な事柄やそれについての課題はありますか？

わたしはそれまでの学校教育と大学における学びの根本的な違いは、関心のあるテーマに対して積極的に働きかけ、自分なりに理解することが評価される点にあると思います。

例えば社会問題を考える場合、多様な立場からの意見があるため、簡単に解決することはいけません。そのような現実に対処するには、問題の全体像を把握し、それに対して自分がどう考えるかを明確にすることが必要になります。自分なりの考えを大事にすると同時に、周囲の意見を尊重することで、少しずつ問題の核心が見えてくるのだと思います。

自由に学び、交流の輪を広げることのできる大学時代に、ぜひとも学友たちと議論し、柔軟な思考を鍛え上げてください。そしてあなたにとって切実な問題に、果敢に向き合ってください！

～ 人環院生から新入生のみなさんへ～

大学は「その人自身」をつくる場所 Y.Yさん(人環D3)

よく遊び、よく学ぶ。大学生活の間にとってほしいことはこの一言につきます。大学で学ぶことは、テストでははかれぬ。大学に入った瞬間から就職活動のことを考えて過ごすのはもったいない。就職活動のための大学生活を送るのであれば、専門学校でもいいはず。一見、無価値に見えることでも、やってみる。すぐに役に立たないことにも時間を使えるのが、大学時代だと思います。社会人になったら無駄そのものができなくなる。人それぞれ個性があると思います。留学したかったらしいいし、本を読みたかったら読めばいい。やりたいと思ったことをやることをお勧めしたいです。勉強と関係のない本をたくさん読み、たくさんのことを考え、一生ものの友達を作り、大学生活を思い切り楽しんでください。あとは健康第一！体は資本です。

先輩からのおすすめ本 MEMO

「ジンメル・コレクション」

ゲオルク・ジンメル著；北川東子編訳；鈴木直訳【附図 HD||76||シ2】

「境界」というものについて一度考えてみませんか？「橋と扉」や「額縁」、「取っ手」というありふれた題材が見事なまでに哲学的エッセーへと高められていく「ジンメル的思考」に触れたあなたは、きっと身の回りのものの「境界性」について考え始めずにはいられなくなるはず。By S.Tさん(人環D3)

「ボディ・サイレント」

ロバート・F・マーフィー著；辻信一訳【附図 平凡社|ライブラリー||566】

身体麻痺を患った人類学者自身と身障者たちの民族誌・身体論・身体障害の社会論。「歩ける者は歩けないということがどういうことか分からないだけでなく、歩けるということの本当の意味さえ理解しない」。著者の生の軌跡を通して新たにわたしたちを知るということを見事に記述した名著。By K.Sさん(人環D2)

「ジョージ・オーウェル評論集1～4」

ジョージ・オーウェル著、川端康雄編 平凡社ライブラリー【文 二十世紀 934||Or||1】

英語の教科書で目にしたことがあるかもしれない、ジョージ・オーウェルの作品の翻訳です。私は新入生のときに生協で買い、日本語で読んで、ようやく面白さを味わえました。両大戦間期～第二次世界大戦期のイギリス社会を垣間みることができると同時に、オーウェルの問題意識が現代日本に生きる私たちにも身近なものだということに驚かされます。By Y.Yさん(人環D3)

「都市風景図鑑」

中平卓馬著【人環総人 748||T||3】

撮ることの、いやそれどころかそもそも見ることの土台を掘り崩してしまうような批評的言説を自ら書き連ねながら、それでもなお撮りつづける写真家中平卓馬。本書は彼が1964年から1982年にかけて雑誌に発表した写真の集成である。共倒れしかねないほどに言葉とイメージがせめぎ合う現場(1977年に中平は昏睡状態に陥り記憶を失う)を目撃することができるだろう。見ること、撮ること、語ること、およびそれらが結び結ぶ関係に興味があるひとにおすすめしたい。もちろん本書と並行して彼の言葉も読んでほしい(「なぜ、植物図鑑か」(ちくま学芸文庫)が手に入りやすいと思われる)。By A.Mさん(人環D3)

開館日程表

9:00-20:00

10:00-15:00

休館（日・祝日、28日定例休館日）

4月

4日 26日

人環・総人図書館ウォークラリー

10日 春季特別貸出返却期限日

28日が日曜日のため、定例休館日は30日(火)になります。

4 4月3日：春季休館

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6

6月18日：創立記念日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

人環・総人図書館

ウォークラリー開催！

4/4～4/26

お気軽にご参加ください！
参加自由！



「環on(わおん)」(人環棟1F)

開室：平日9:00-17:00

本館の定例休館日も開室

休室：土日祝日ほか

(本館の休館日と同じ)